文教厚生常任委員会行政視察概要

令和４年７月２７日（水）
於　川崎市立川崎高等学校　大会議室
午後３時００分～午後５時００分

１　調査の概要・説明

…… 校長、福祉科主任教諭、教育委員会事務局指導課担当課長

「福祉科について」

川崎市立川崎高等学校の福祉科は、平成３年度に第２次川崎市立高等学校教育問題検討委員会の中で検討が開始された。検討会から、平成６年３月に今後必要と思われる学科やコースについての提言がなされ、これを受けて、高齢化社会に対応する人材の養成と特色ある高校教育づくりを推進するため、福祉科開設に向けて準備が進められ、平成９年４月に開設された。また、平成２６年には新校舎が建設され、福祉科の施設についても充実が図られた。

福祉科は、社会福祉の知識や技術を学び、将来、介護・医療・福祉・教育の分野で活躍する専門職の育成を目指しており、令和３年度の介護福祉士国家試験では、全国平均７１％のところ、９７％という全国でもトップレベルの合格率を誇っている。

カリキュラムは、半分が福祉科専門科目となっており、３年間で１３週間の介護実習や国家試験合格に向けたきめ細やかな指導を通じて高い目的意識が培われ、卒業時には福祉のリーダーシップを発揮できる人材が育成されている。その結果、地域で活躍する卒業生が増え、卒業生からの発信等により、入学時に既に高い目標や将来ビジョンを持った生徒が集まり、厳しい指導やカリキュラムではあるが、その覚悟を持った生徒が入学してくるため、ミスマッチを防ぐことができている。なお、福祉科の開設当初は、指導やカリキュラムの厳しさから挫折する生徒もいたが、中学生向けの学校説明会や体験授業の際に在校生との交流の場を設けたり、本年８月からは小学生向けに体験授業を企画するなどして、ミスマッチへのフォローも行っている。

卒業後の進路については、４年生大学や福祉系の短大、看護系の専門学校等への進学が半分以上を占めており、介護系の施設への就職は３割に満たない状況となっている。また、進学後の生徒が市内の福祉系の施設へ戻ってきて就職しているか等の追跡調査は行っていない。即戦力となる福祉人材を期待する当局としては、神奈川県が実施する福祉系高等学校就学支援金等の制度を周知し、福祉人材を確保することが課題となっている。

２　主な質疑応答

問　中学生向けの学校説明会等で福祉科のＰＲはどのような工夫をして行っているか。

答　特に特別な資料等は用意していないが、在校生が中学生に体験授業を行う等、在校生と中学生が交流する場を設け、話を聞くだけでなく体験を通じて興味を持ってもらえるよう工夫している。

問　福祉科開設当初のミスマッチはあったか。

答　当初、福祉の良い面だけを見て入学してくる生徒は、実際に入学してからの厳しさに辞めたいという生徒もいたが、福祉の教育というのは厳しさを教えることも大事であると考えている。現在は、卒業生からの発信等もあり、厳しいことを承知で、覚悟を持って切実な思いで入学してくる生徒が多い。

問　就職時のミスマッチへの対策はどのように行っているか。

答　小テストでは満点を取るまで再試験を行い、勉強の仕方から徹底的に指導している。また、１年次より挨拶等の基本的な礼儀から厳しく指導し、１年次の実習が終わる頃にはどの生徒も皆大きく成長している。卒業時には、福祉現場でのリーダーとして活躍できる人材に成長している。

問　卒業生の進路状況について、どう見ているか。

答　近年の傾向として、進学が増えてきている。福祉科での学びを踏まえて、生徒が自主的に将来のことを考えて進学を選択している。

問　進学した生徒が将来どのくらい福祉現場に戻ってきているか等、追跡調査はできているのか。

答　統計をとる等の調査は行っていないが、多くの生徒が卒業後、本校に遊びに来て近況報告をしてくれる。その際に、福祉科で学んだことが職場等でどのように活きているのかを聞き、本校での教育の意義を実感している。

以　上